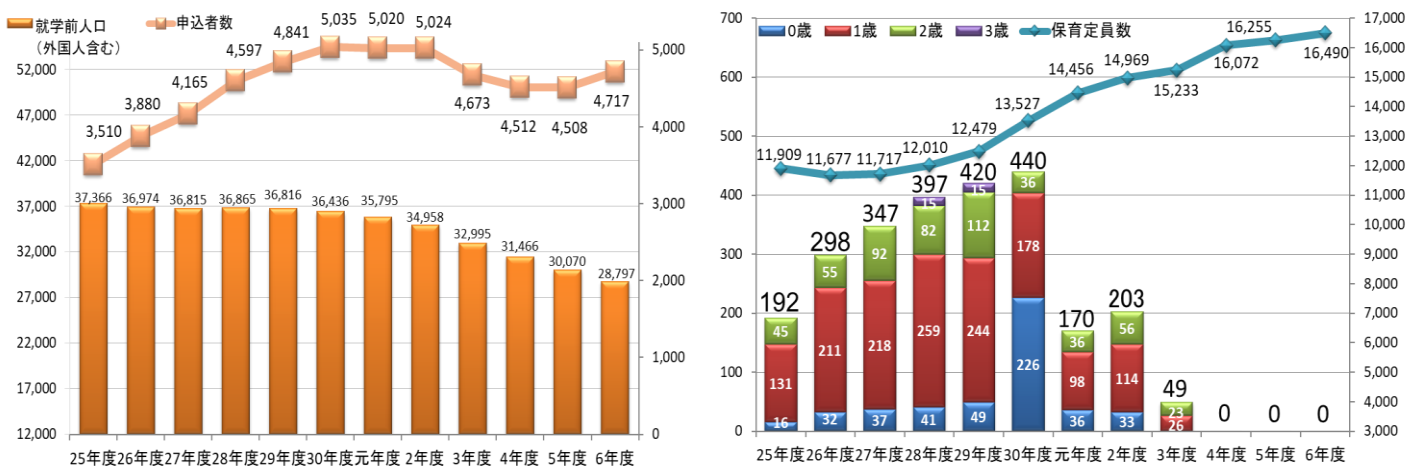


## 今後の保育ニーズを踏まえた対応について

### 1 直近の保育ニーズ及び待機児童数等の状況

- (1) 就学前人口は減少傾向にあるが、保育園の入園申込は増加傾向にありニーズの上昇が伺える。
- (2) 保育定員の拡大等に取り組み、結果として令和 4 年度以降、待機児童数は 0 になっている。
- (3) 江戸川区は他区と比べ女性の就労率が低く、未だ潜在的な保育ニーズがある。  
(30～34 歳女性の就労率⇒江戸川区：77.0%(特別区最下位)、 23 区平均：84.5%)



### 2 今後の見通し

- (1) 大規模マンションが建設される地域や閉園が予定される地域等がある。
- (2) R8 から「こども誰でも通園制度」が開始される予定。

### 3 今後の保育ニーズを踏まえた対応（令和 7 年度・令和 8 年度）

令和 7 年度に向けた取り組み	概要
保育施設の弾力化の推進	施設基準の範囲内で定員を上回る受け入れが可能な園について、引き続き協力をお願いする。 ※改めて区から協力を依頼する通知を発出する。
令和 7 年 4 月開設の私立認可保育園分園の設置(0～2 歳)	需要の高い 0～2 歳児を受け入れる分園の設置に対して、施設整備にあたっての補助を行う。 ※意向調査を行い、提案内容を踏まえ可否を協議する。
認可外保育施設への保育料補助の実施	空きがある企業主導型保育所への誘導策として保育料補助を行うとともに、他の認可外保育施設へも保育料補助を行い、補助の均衡を図る。
令和 8 年度に向けた取り組み	概要
令和 8 年 4 月開設の認可保育園の公募（4 地区 6 園程度）	保育需要の高いエリア（①京成江戸川・京成小岩駅地区 1 施設、②小岩駅 2 施設、③篠崎駅地区 2 施設、④葛西駅地区）に私立認可保育園を公募し、新設を行う。